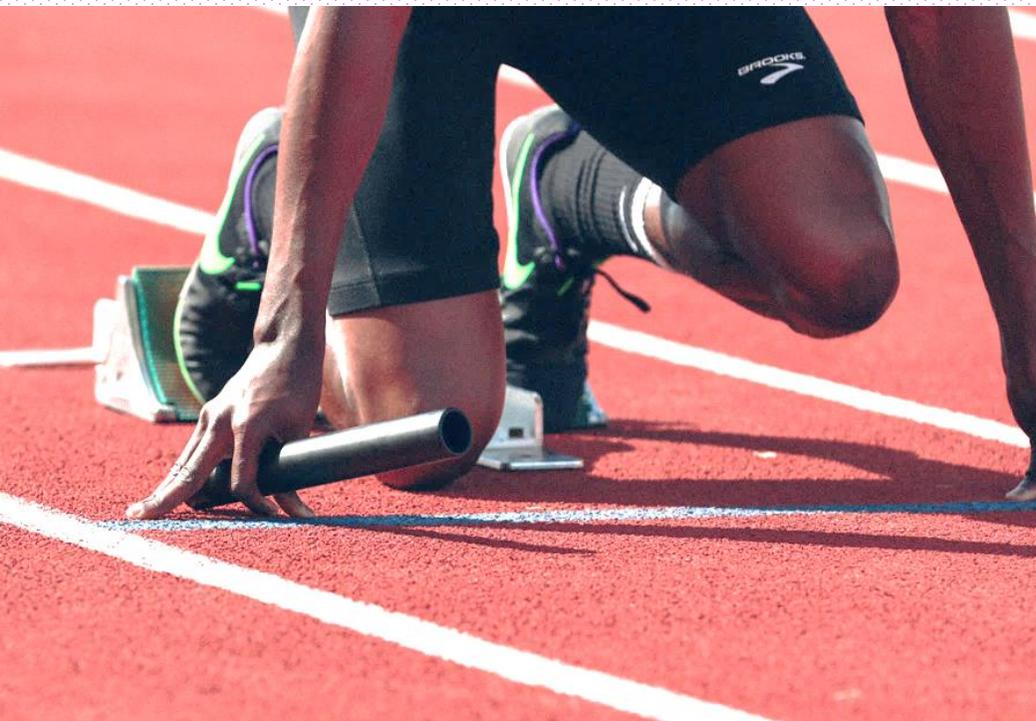


事業計画

令和元年度



一般社団法人 情報サービス産業協会

現状認識 (会員企業経営者46名のヒアリングから)



環境の変化 (今、我々はどのような変化の中にいるのか)

- **変化の潮流** : 2025年の**大阪万博**では、**最先端ITによる未来社会**が脚光を浴びる。今後、社会やビジネスのあらゆる領域において、**ITで社会課題を解決**していく思考が重要になる。
世界は、米国と中国のIT企業がビジネスをリードし、新たなメディアが躍進している。B2C企業は、Amazonの影響によりスピーディに大量のリリースが出来る仕組み・マイクロサービスが浸透し、**生産性をケタ違いに変化**させた。
日本企業においても、コーポレートITからビジネスITへのシフト、クラウド・モバイル化の進展で“基幹系”とは違う“**DX・デジタル系**”の動きが活発になっている。我々は、**好況下の今こそ**、DX、デジタル化、サービス化等への改革に手を打たなければならない。**旺盛なシステム需要も2020年以降には後退懸念**もある。いわゆる「**2025年の崖**」も顕在化してくる。受託型ビジネスは、生産性・収益性が向上せず、管理コストの増加により、儲からない状況にある。**人手不足は常態化**し、**新卒採用も深刻化**している。**若年層の離職**も増え、セキュリティ・クラウド・AI・ERP等の分野では高い報酬での引き抜きが多い。
- **顧客が抱える課題** : 顧客は、大規模化したレガシーシステムの機能を保証しながらの再構築を迫られる、継ぎ接ぎしてきた現行システムは最適化されない、自らの**IT機能を外部に出し、要件定義が出来ず、DX等新しいことに対応出来ない**、経営者の**ITへの理解**が深まらない—など多くの課題を抱えている。
- **技術・サービスの変化** : 先進技術として**CAMBRIC (Cloud, AI, Mobility, Big data, Robotics, IoT, Cyber Security)** の7つの成長分野への対応が重要である。また、ウォーターフォール型ではないマイクロサービス等の新たな開発方法への対応も求められてくる。こうした、**新しい技術には若手の方が“すっと入っていける”**。
- **ビジネスの方向** : アジャイル開発が増えているが、ITの分からない顧客と業務の分からないベンダーにより、いつまでも仕様を確定出来ない“**終わりのない開発**”となることもある。顧客の外部委託のあり方も変わり、新たな取引ルール・モデル契約が必要になる。ベンダー企業として、“変化への対応 (**SoE**) ”と“従来の仕事 (**SoR**) ”が出来ないとビジネスにならず、双方のバランスを**事業ポートフォリオ**で考えることが重要になる。
- **人材の変化** : ウォーターフォール型の開発技術者への需要は少なくなる。一方、**デジタル技術とデザイン思考**を身につけた技術者に対する需要は高まる。**人材の流動化**が進み、優れた人材を従来の人事・給与体系で雇用するのは難しくなる。シニア人材がモチベーションを高くして活躍出来る仕組みも必要となる。更に特定技術に造詣の深い**トップガン人材**を輩出しなければならない。

変化への対応(今、我々は変化に対しどのように対応しようとしているか また、未来に向け何を為すべきか)

- **人材革新**：変化を生き抜く技術者の育成は、ITSS等の**フレームワークに人を当てはめる概念では限界**がある。時間ではなく成果を意識し、**他流試合**で鍛え、仕事に限らず**“打ち込める何か”**を持つように**マインドセットをチェンジ**する必要がある。経営者は、**人への投資を第一**とし、**働き方改革を強力に推進**し、業界内外の若者にITの仕事の**“やり甲斐”**、**“楽しさ”**を発信することがDX推進・変革に繋がる。
- **技術革新**：**最新技術**への取組が企業・産業の魅力度を上げ、人材確保に繋がる。DXは**従来の経験知**では想像出来ない世界だが、**全体像を“見える化”**すれば顧客・ベンダーの役割が見えてくる。DXの人材育成は、業務の理解、上流での提案、最新技術の理解・実装・展開が大事であり、それを体験する**“場”**が重要になる。社会課題解決に必要な機能は何か、あらゆる事を考え、要件変更にも対応し、実装するのが真の**“ITプロフェッショナル”**と言える。
- **経営革新**：経営者は、理想を持ち、**自らの発想とマインド**を変え、社内プロセスを見える化し、社員のモチベーションを高め、**“個の力”**の時代に向けた自立的経営を実践する必要がある。今、何が起きているか**現場の“肌感覚”**を重視し、現場と経営が共に社会や業界の動きに敏感になることが重要である。取引では、**強み・特色**がなければ実績ある企業も選ばれない。元請・下請が**取引ルール**を理解し、共に発展することが大切となる。
- **グローバル展開**：海外進出は、**オフショア開発からビジネス展開**に変わり、新しいビジネスを最初から海外で始めるケースも出ている。中小・地域にもアジアで**“何かをやりたい”**、**“海外人材を採用したい”**という企業が増えている。アジアを含め**世界のIT産業にはパワーを感じる**。如何に連携し、そのパワーを活かすかが重要である。また、データの国際連携や流通に係る**新しいルール作り**にどう対応していくか喫緊の課題である。
- **地域・中小企業**：地域では、仕事量は多いが、**DX・SoEはまだ僅か**で、レガシーを中心にデジタル化と言っても業務効率化に止まり、**予算も限られ**ている。一方、**キラリと光る企業**も多数あり、地域間や首都圏等との連携による新しいビジネスを創造する可能性は高い。そうした企業は、ITによる地域課題解決のため**自ら考え、東京を見ずに**、地域から日本を活性化させようとしている。

(参考) 若手は今、何を考えているのか

- 「**何のために働くか**」は、技術で評価されるため、プロとしての技術を磨くため、安定よりも挑戦を求めため、社会課題に挑戦するためーなど。
 - 「**DXにどう向き合うか**」は、SIモデルからの脱却、ボトムアップでスピード感ある新技術対応、デジタルネイティブの行動に学ぶ組織文化の変革ーなど。
 - 「**仕事の魅力**」は、社会にIT活用の提案・実証が出来る、新しい課題に挑戦出来る、顧客に**“お願いします”**と言われることーなど。
- 出来るエンジニアは、**挑戦する課題や新しい技術**に集まり、**面白いこと**が出来なければ去って行く。

JISA Spirit 具現化 に向けた私たちの覚悟

- 世界で勝ち抜く技術者を育成していかなければならない
- 第2の創業の心意気で新しいビジネスを生み出していかなければならない

JISA Spirit

ソフトウェアで「！（革命）」を
一人ひとりに「！（おどろき）」を
お客様に「！（きらめき）」を
私たちに「！（ワクワク）」を

JISA Dream

新たな価値の創造

社会課題解決のため、強い
思いと夢を持って、新たな
価値の創造に向けた行動へ

【理念・思い・夢】

【ビジョン】

【行動指針】

事業活動方針 / 事業活動テーマ



事業活動方針

JISA Spiritの実現に向け、その前提となる情報サービス産業におけるDX実践のための基盤たる「人材革新」、「技術革新」、「経営革新」（三位一体の革新）を支援・推進する。なお、2019年度においては、特に「人材革新」に注力する。

事業活動テーマ

A

人材革新

「こうしましょう」と言える技術者、
プロの技術者としての誇りと
たゆまぬ技術向上心を持つデジタルエンジニアの育成

トップガン人材
の輩出
“変革をリードする
「スーパーITアスリート」”

ソフトウェアで
「! (革命)」を

多様な人材を許容する
組織・文化への変革

DXによる
構造転換

モノづくりからの脱却
コトづくりへ

先端技術の追求と
人に優しく安全な技術の活用

ビジネスモデルの変革と
オープンイノベーション・
異業種間エコシステムの推進

B

技術革新

C

経営革新

A 人材革新：「こうしましょう」と言える技術者、プロの技術者としての誇りと たゆまぬ技術向上心を持つデジタルエンジニアの育成

- ・ 技術者のマインドシフトに向けた「場」「感動体験」（ベンチャー交流・海外体験・アイデアソン等）の設定
※ 「どうしましょう」という受身姿勢から、「こうしましょう」という課題を発見・発掘し解決に挑みビジネスをリードする積極姿勢へ
- ・ 技術者のスキルシフト（SoRからSoEへ、アメニティ・感性・感覚を重視）の促進
- ・ **トップガン人材**（ヒーロー、スター、尖った人材）の輩出
- ・ 技術者のプロ意識・自律的技術向上心（学び）を後押しする社内風土・制度の確立と部門管理者等の意識改革

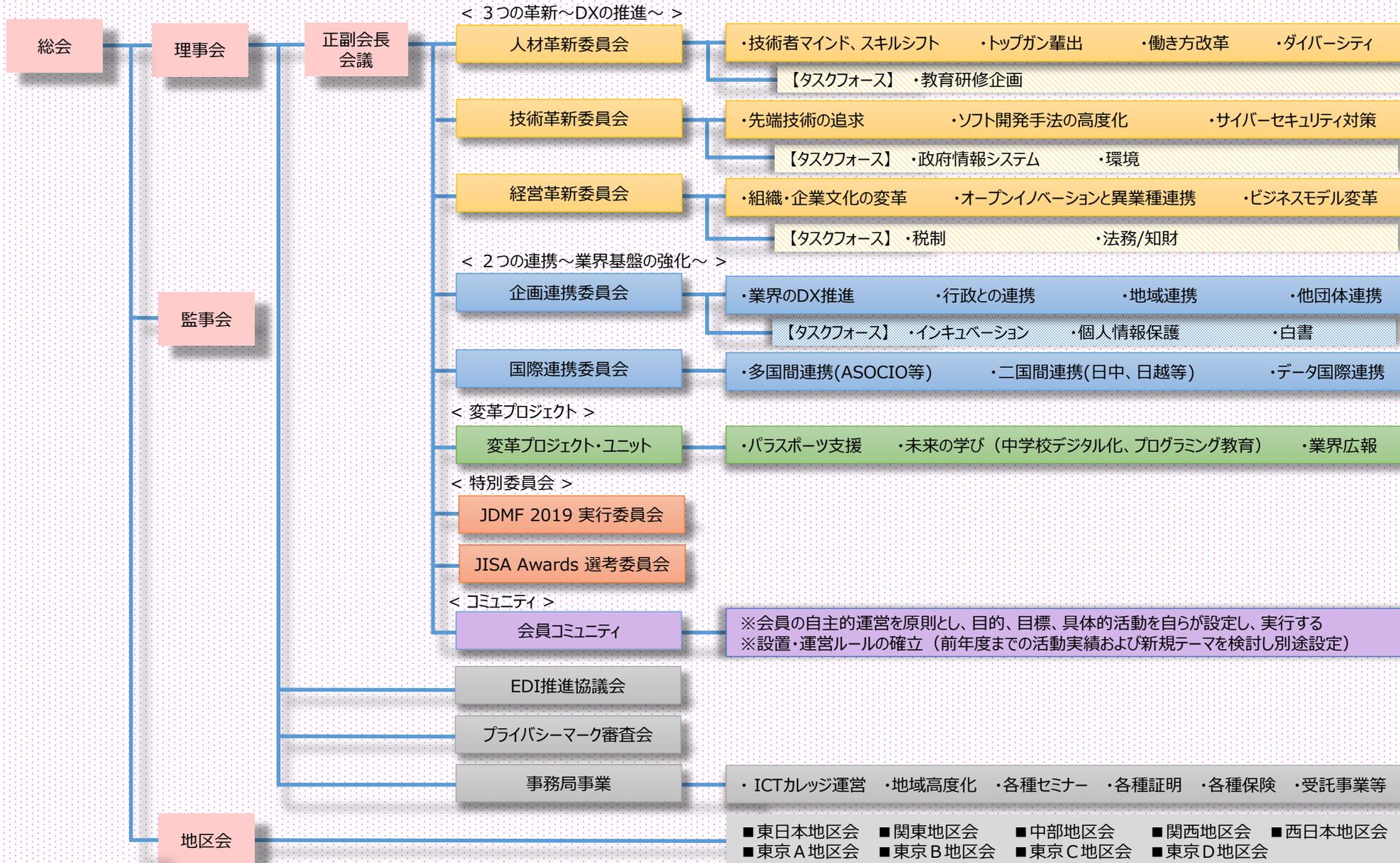
B 技術革新：先端技術の追求と人に優しく安全な技術の活用

- ・ 先端技術（SMACからAI・IoTへ）の追求
- ・ 開発方法論の進化（つくらないソフトウェア・サービス）への対応
- ・ DXに向けたレガシー対応と安全なIT社会に向けたサイバーセキュリティ対策の強化

C 経営革新：ビジネスモデルの変革とオープンイノベーション・異業種間エコシステムの推進

- ・ 組織・企業文化（多様な人材（尖った人材）を受容し、そして活かす）の変革
- ・ 新たなマーケット（“モノづくり”から“コトづくり”へ）の開拓
- ・ オープンイノベーションの推進と異業種連携を含むエコシステムの構築
- ・ 労働集約型ビジネスからの脱却を前提としたビジネスモデル変革

2019年度 組織体制



※地区会から理事会等への提言・問題提起

各組織の目指すゴール



テーマ	委員会等の組織	目指すゴール
3つの革新を推進する委員会	人材革新委員会	「こうしましょう」と言える技術者、プロの技術者としての誇りとたゆまぬ技術向上心を持つデジタルエンジニアの育成
	技術革新委員会	先端技術の追求と人に優しく安全な技術の活用
	経営革新委員会	ビジネスモデルの変革とオープンイノベーション・異業種間エコシステムの推進
2つの連携を推進する委員会	企画連携委員会	業界基盤の強化、産業構造転換に向けた環境の整備
	国際連携委員会	アジアにおけるプレゼンスの向上、グローバルビジネスの推進、国際社会における課題への対応
変革プロジェクト	パラスポーツ支援コミュニティ	ICTと業界100万人によるパラスポーツの振興、2020パラリンピック成功に向けたボランティア活動の推進
	未来の学びプロジェクト	教育現場でのICT活用及び創造的人材育成に向けたIT教育実践の推進（中学校デジタル化、プログラミング教育）
	業界広報プロジェクト	ITとその仕事の魅力・展望等を社会・若者に訴求するための企画・実践
タスクフォース	教育研修企画タスクフォース	自律的な学びのための環境整備に係る企画・実践に取り組む（ICTカルッジ [®] 企画、オンライン活用）
	政府情報システムタスクフォース	「国民の利便性向上」や「行政運営の効率化」を目指した政府情報システム整備に係る諸課題への取組
	環境タスクフォース	CO2削減等の推進に取り組む
	税制タスクフォース	税制要望のとりまとめ等に取り組む
	法務・知財タスクフォース	取引・知財等に係る法制度改定への対応、モデル契約の策定等に取り組む
	インキュベーションタスクフォース	DX実現に向けた企業連携によるインキュベーションへの具体的な取組（DBIP）
	個人情報保護タスクフォース	個人情報保護に係わる諸課題への取組
	白書編纂タスクフォース	情報サービス産業白書2020の企画・編纂
特別委員会	JDMF2019実行委員会	JISA Digital Masters Forum 2019の企画・実践
	JISA Awards選考委員会	JISA Awards 2020の審査、受賞者の決定
会員コミュニティ	前年度までの活動実績および新規テーマを検討し別途設定	
協議会	インターネットEDI推進協議会	インターネットEDIの普及に向けた取組の実践

委員会

1. 本計画（案）における「3つの革新を推進する委員会」及び「2つの連携を推進する委員会」に関する記載は、あくまでも活動の方向と役割を示すものであり、実施体制等を含め、各委員会の具体的な活動プラン（企画書）を新体制発足後速やかに策定する
2. 各委員会の活動は、環境変化や重要性による優先度により、柔軟に取り組み、期待される最適な成果達成を目指す
3. タスクフォースは、具体的な成果が求められる業界の共通課題に対して、分野・テーマ毎の有識者及び専門家を委員として、時機に応じて機動的な活動を実践する

変革プロジェクト

1. 変革プロジェクトは、前年度までの「革命プロジェクト」の成果を踏襲し、JISA Spirit の実現を目指した活動を実践する
2. 特に「パラスポーツ支援コミュニティ」及び「未来の学びプロジェクト」は、社会課題としての持続可能な開発目標に資する活動を継続する
3. 業界広報プロジェクトは、業界のプレゼンス向上に向け、社会への訴求活動を推進する

会員コミュニティ（コミュニティの設置・運営について）

1. コミュニティは、会員の自主的運営を原則とし、目的、目標、具体的活動を自らが設定し、実行する
2. コミュニティの設置は、申請に基づき、継続の場合は前年度までの活動実績、新規の場合はテーマの妥当性を検討し、正副会長会議の承認により設定する
3. 参加メンバーから互選された座長・リーダー、幹事等を中心に運営する
4. 各コミュニティは、活動結果を取りまとめる（上期・下期）



一般社団法人 情報サービス産業協会